

クチンでの楽しみ

社団法人日本マレーシア協会 専務理事 新井卓

マレーシアとご縁が深い方でも、意外とサラワク州の州都クチンにはなじみがない方が多いのではないのでしょうか。同じボルネオ島のサバ州と比べて、コタキナバルのようにリゾート地として知名度が高いというわけでもなく、比較的地味な印象ですが、古い街並みの佇まいとサラワク川沿いの風景が印象的な街で、一度訪れると気に入る人が多いところです。

私は、社団法人日本マレーシア協会のプロジェクトとして、1995年からサラワク州にて熱帯雨林再生活動を行っている関係で、時々クチンへ出かける機会を得ています。

この活動は、クチンから車で2時間ほどのインドネシア国境に近い地域にあるアペン保護林など、30年ほど前の伐採跡地で行っているもので、5～10メートル程度の雑木が茂った二次林の中に幅1メートル程のラインをつくり、1ha当たり地形に合わせて200～400本を植えています。植林樹種はフタバガキ科在来種で、カポール・ブキットやエンカバン・ジャントンなどを主に植えています。

3年前から、活動地内に簡易な苗畑施設を造り、育苗作業を行っています。地域住民が苗木を育て、それを植えていくことを奨励することで、持続的な植林活動が定着するように働きかけています。

また、アグロフォレストリーの導入として、有用樹種の混植を試験的にを行っています。活動地では、これまでドリアンやプタイマメなど、地域で育てられている果樹等を混ぜながら植林を行ってきましたが、さらなる混植樹種として、地域住民の要望が多かったゴムノキも植えています。

今後は、マレーシア・サラワク大学と日本の大学との交流を推進し、日マの青年交流や環境保全分野の調査研究に繋げていくことも目指しています。

この活動のおかげで年間数回クチンを訪れていますが、そこでの個人的な楽しみはやはり地元の名物料理を探索することです。外食はどうしても華人系の食べ物が中心になりますが、福州系（フーチャオ）が多いサラワクでは半島部では味わえない麺類があります。

代表的なのはサラワク・ラクサとコロミーです。ラクサはマレーシア各地に地元の味がありますが、サラワク・ラクサはビーフン麺を使い、スープはカレー味でもなく、魚のすり身を使ったすっぱ辛い味でもなく、独特の風味があります（うまく表現できません）。コロミーはいわゆる汁なし麺なのですが、麺にこだわりがあるようです。人気店はどこも手打ち麺を使っています。コロミーはフェイスブックでも愛好者のページがあるほどです。



私はクチンのホテルから徒歩の範囲の店しか行きませんが、それでもお気に入りの店が数件あります。特に春泉カフェのラクサとコロミーはクチンを訪れたら必ず食べに行きます。機会がありましたら、マレーシア通の皆様方とクチングルメの情報交換ができればと思います。



障害者スポーツとオリンピック

峰村 史世 (H.9-2、水泳)

1997 年 12 月に、水泳隊員としてマレーシアに赴任してからちょうど 15 年。その間、日本、マレーシア、ニュージーランドの 3 カ国を行ったり来たりしながら水泳指導を行なってきました。

そんな中、2002 年 8 月に一般短期隊員としてマレーシアに再赴任し、障害者スポーツ協会へ配属となり、障害者への水泳指導を本格的に始めました。当時マレーシアには障害者水泳の指導に関わる人がほとんどおらず、あらゆる障害者 20 人ほどを 1 度に指導したこともありましたが、その時の経験が、今の私の障害者水泳指導のベースになっていると思います。



2004 年アテネパラリンピックには、マレーシアのコーチとして 3 選手とともに参加しました。SM4 クラス 150m 個人メドレーでは、7 位、8 位をマレーシアと日本の選手が争い、この時はマレーシアの選手が 7 位と上位だったのですが、8 位だった選手はのちのち私が日本に帰ってから直接指導することになり、北京・ロンドンと 2 大会連続でメダリストとなっています。なんとも縁を感じ、感慨深いものがあります。

アテネパラリンピック後に任務が終了し帰国、そこからは日本の障害者水泳に関わり続けています。まだまだボランティアで成り立っている部分が多い世界であり、オリンピック競技のように人も費用も充実には程遠い状況ですが、日本人特有の努力と根性？で選手や関わるコーチ/スタッフは必死に戦っています。

います。

2008 年北京パラリンピックでは、日本代表チームのヘッドコーチを務め、金 1・銀 2・銅 3 のメダルを獲得、水泳チーム 18 名全員が入賞しました。

そして、今年行なわれたロンドンパラリンピックでも、引き続き水泳日本代表チームのヘッドコーチとして参加、水泳チームは金 2・銀 2・銅 4 のメダルを獲得しました。

ロンドンパラリンピックのマレーシア水泳代表は 2 選手、そのうちの 1 人はアテネ、北京、ロンドンと 3 大会連続代表となり、もう 1 人は任期中 2003 年に行なわれた国際ユース大会のために発掘した選手で、2 人とももう長い付き合いになります。国際大会へ参加するたびに再会できるので、その成長やマレーシアの現状を知ることができ、毎回楽しい時間を共有しています。

昨年スポーツ基本法が成立し、年々障害者スポーツへの関心も高まってきています。また 2020 年東京オリンピック・パラリンピック招致活動がいよいよ佳境に入ってきました。障害者スポーツに関わるものとしては、やはりどうかして 2020 年東京でオリンピック・パラリンピックの開催を実現したいと思いますし、ぜひ多くの方に『生』でオリンピック・パラリンピックを見てほしいなと思っています。絶対に面白いし、楽しいし、…わくわくゾクゾク、「何か」を感じることができると思います。



帰国隊員報告会開催

去る7月17日、旧 JICA 地球ひろばで、マレーシア会主催で第一回の帰国報告会が開催されました。当日は、たまたま来日中のマンソール先生ご夫妻、娘のヌルルさんの参加も得て、30名ほどの参加がありました。報告内容も福祉関係のお二人がとてもよくまとめて報告くださり、マレーシアの現状が理解されました。お二人に報告内容をまとめていただいたものを掲載いたします。

浦井 加奈 (H22-1、ソーシャルワーカー)

私はソーシャルワーカー隊員としてパハン州社会福祉局に所属し、PDK (Pemulihan Dalam Komuniti=地域に根ざしたリハビリテーション)を展開する障害者センターで行った活動を中心にご報告を致しました。帰国したのは6月23日。1ヶ月も経っていない中、まだまだホットな気持ちで帰国活動報告をさせて頂きました。

私の活動の目的は PDK に通う障害者の人たちの社会参加支援促進。といっても、一体何からやったら良いのかわからず、色々手を出しては失敗して、の繰り返しで最初の半年は全く途方にくらっていました。氣を持ち直し、日本での経験も持ち合わせていた障害者の就労支援に焦点を絞って残り期間の活動を進めました。少ない数の人たちに支援ができたのですが、そのことで「障害をもっていても支援の方法を工夫すれば、地域で働くことができる、ということがわかったよ。」と配属先に言ってもらえたことを、とても嬉しく思いました。また、帰国後、自分が支援して開拓した障害者就労場所で、新たに別の利用者がセンタースタッフの支援を受けつつ働き出している様子をマレーシアから伝えてもらい、「活動が実った！」とまた嬉しさを感じました。

7月の報告会では、多くの元隊員の方々がお越しになり、報告を聞いて下さいました。ご質問の中で印象的だったのは、「マレーシアの隊員派遣は長い歴史があるが、何か積み重ねを感じるものがあつたか？」というもの。あまりそういった視点で考えたことがなかったのですが、振り返ると多くの元隊員のお名前を現地の活動先で耳にし、そして今も福祉分野では過去の隊員の方々が始められたカウンターパート会議が継

続していることを考えると、これまでの隊員活動の歴史の上に、2年間で過ごすことができたのだろう、と改めて恵まれた環境で活動ができたことに深く感謝の意を感じます。

最後に、マレーシア会の皆様に今回ご報告の機会を下さったことにお礼申し上げます。ありがとうございました。



ホテルでの清掃実習を終えた PDK 利用者と浦井さん

ささげ 文子 (H22-1、作業療法士)

私はクランタン州社会福祉局に配属され、州内に33箇所ある PDK (障がい者の通所リハビリテーションセンター) をソーシャルワーカー隊員、体育隊員と共に巡回していました。活動は、新しいアクティビティや PDK 製品の提案、身体機能訓練の指導や姿勢保持クッションの製作です。また、2つの PDK で、障がい者の人権擁護とモデルとなるための車椅子トイレやスロープの建設をスタッフや大工さんと共に行ってきました。

7月17日の活動報告会では、私の暮らしていたクランタン州の紹介もさせて頂き、また、懇親会ではマレーシア隊員の歴史や武勇伝などもお聞きすることができ、とても楽しい会に参加させていただくことが出来ました。これからも、マレーシア会を通して、大好きなマレーシアとの交流の機会を多く持っていけたらと思っています。今後ともよろしくお願い致します。



姿勢保持椅子作成指導中の捧さん (左)

Jalan-Jalan di TOKYO!!

報告者: 齋藤 まり(H22-1.青少年活動、クチン)

2012年9月5日～21日の日程でマレーシアの行政管理コースの青年研修が行われ、マレーシアから17名の研修生が来日しました。マレーシア会でも研修生たちと交流できないかと考え、研修がお休みの9月8日(土)に一日東京観光へと繰り出しました。

簡単な自己紹介をした後、まずはお土産を見に浅草へ。大人気だったお土産はやはりマグネット!!人気の絵柄は舞妓さん、富士山、雷門・・・などなど。在マ時代、ホストファミリー宅の冷蔵庫にたくさん貼ってあったのを思い出して懐かしい気持ちになりました。



みんなで電車に乗って♪



郡元調整員より注意事項の説明

続いては浅草近くの、スカイツリーの記念撮影スポットで集合写真をパチリ。そして、マレーシア研修生が声をそろえて行きたい!と言っていたスポットの「Hard Rock Cafe」。世界各国に店舗があり、マレーシアにも4店舗あります。日本にも6店舗あり、今回は“上野駅店”へ。研修生に聞いたところ、「店舗によってオリジナルグッズがあって、各店舗のグッズを集めているコレクターが世界中にいるのよ」ということでした。へ～知らなかった!!



噂のハードロックカフェ上野駅店



参加者全員で記念撮影

久しぶりのマレーシアの人たちとの Jalan-Jalan。マレーシアの人たちの視点で日本を見るといろんな発見があるんだと感じた一日でした。またこのような機会を持てたらいいと思います。Sekian, terima kasih!

マレーシア会参加者：郡昭治、志岐文子、佐藤元一、捧文子、齋藤まり

マレーシア国とのつながり

金子 博 (S53-1 後期、電気工事)



ジュニアークラスの駅伝ランナー
(平成 24 年)



ランカウイ島民族舞踊団公演
(平成 23 年)



マレーシアどんたく隊
(平成 24 年)

マレーシア国留学生の成人式

1996 年から日本の成人式に合わせてマレーシア留学生（20 才）の成人式をお祝いしている。振袖、羽織袴姿は堂にいったものである。



マレーシアとの関わりの中で気になるイベントがあり、休暇を利用して、「2012 年第 7 回マレーシア国際駅伝大会」の状況視察のためマレーシア国に渡った。今回で 7 回目を迎えるマレーシア国際駅伝大会は 5 つのカテゴリーがあり、総数 1,085 グループ（5 人で 1 グループ）が参加していた。この暑い国で、宗教上の規律を守り駅伝大会が続いていくのかと当初心配していたが、健康志向とマレーシア青年スポーツ省、元留学生同窓会、在福岡マレーシア国名誉総領事館等のサポートがあり、毎年恒例の一大イベントとして開催されるまでになっていた。警察、看護体制、ランナーの輸送の準備、ボランティアの活動等が日本のような運営体制までにはいれないが、5,000 人以上のランナー達をコントロールする事は大変な運営となる。これからも充実した組織的な運営になることを見守りたい。日本からは福岡市役所（第 1 回から毎回参加）、正興電機(株)、大阪の大学生、もちろんマレーシア在住の日本人達も参加している。今年の駅伝大会では福岡市役所の女性グループが「Women Open」で優勝を飾った。

日本でのボランティア活動の関わりは 34 年さかのぼる。青年海外協力隊でマレーシア国に派遣され、シブ職業訓練学校に 3 年間従事した後、帰国してから始まった。福岡県の O B 会の会員入会と同時に福岡の中学校・高等学校等での異文化紹介講演やワールドグルメフェスティバルの開催を定期的に行った。また、福岡県が実施していた「少年の船」の支援を休日に行っていたのを思い出す。

私がマレーシアに住んでいた事もあり、福岡の留学生達との文化交流、花見、成人式、運動会、マレーシア国独立記念祭を実施している。当初は留学生との年齢差はあまり感じなかったが、今や留学生達の両親は私より若く、祖父母と同世代でもある。彼らのおやじでもあり、お爺ちゃんでもある。それでも留学生は私を受け入れてくれる。

また、20 年ほど前からはホームステイ協会の受け入れとともに、マレーシア民族舞踊団とマレーシアの高校生の交流事業の受け入れの支援を行っている。マレーシア政府観光局の支援もあり、九州マレーシア協会を設立して団体活動を始めた。佐賀県をはじめとして九州 7 県すべての県で受け入れていただき交流事業を実施する事ができた。各県での良き理解者のおかげであると感謝している。また、毎年実施しているマレーシア民族舞踊団の公演は、昨年 11 月に新装開業 1 周年目の博多駅前の広場で「ランカウイ島民族舞踊団来日公演」として実施させていただいた。このような公演事業の来日行程を組み立てる時は毎回大変苦労している。決定するまで時間はかかるし、交流先との打合せ、バスや宿泊施設の手配、本当に来日するのだろうかと福岡空港に到着するまで気が休まらない。それでも、終了した時の思いは「やって良かった」と安堵する。日本側の受け入れ先の期待とマレーシア側の思いが一つになれた事が何よりの喜びに置き換わる瞬間でもある。最高の「インシャーアラー！」で何事にも感謝している。

今年のマレーシア会の活動風景

協力隊まつり

4月21日22日



旧地球ひろばでの協力隊まつりマレーシア会出展ブース風景

帰国報告会

7月17日



報告者のお二人



マンソール先生一家



帰国報告会の様子



報告会後の懇親会

研修生との交流会

9月8日



真剣な買い物

募集！

青年海外協力隊マレーシア会では、会のホームページ開設を考えています。どなたかボランティアでホームページ作りをしてくださる方がいらしたら、ご連絡お待ちしております。今は国際協力サロンのサイト上に過去2回のOB会、設立総会の写真をアップしています。

☆次回総会☆

会場予約の都合上、変更の可能性もありますが、次回の総会は平成25年9月22日(日)を予定しております。

ご寄付お願い

現在マレーシア会は総会開催の残金、各種イベント参加でのわずかな収益で運営されています。OVの方でご寄付いただける方は名前の後に隊次を明記の上、下記口座までお振り込みお願いいたします。金額は問いません。ご芳名は後日会報でご案内いたします。

郵便局記号：10140 番号 51611341

(郵便局外から振り込みの場合：店番 018、普通口座 5161134 となり、最後の1が落ちます)

口座名義人：青年海外協力隊マレーシア会

代表 白山 肇

今回の会報は青年海外協力隊マレーシア会会員に郵送の形でお送りします。同時にメールアドレスへも配信いたします。もし、紙媒体の会報が届かなかった方は、住所のお届けがないか、2010年OB会に参加後、賛同の意思をご連絡いただいていない方です。事務局までご連絡ください。また、配信を希望されない方はご連絡ください。登録会員は現在410名になりました。まだ、会員登録されていない方には、是非マレーシア会のご案内ください。

発行 青年海外協力隊マレーシア会 会長白山肇

106-0047 東京都港区南麻布 5-2-39

ニュー東和ビル 503 国際協力サロン Together 内

TEL 03-6277-3772 FAX:03-6277-3775

MAIL:malaysia@ics-together.com